

司 式 熊 田 雄 二 牧 師  
奏 楽 大 日 南 苗 香 姉 妹

前 奏

開 会 招 詞

\* 賛 美 歌 5:1 恵み豊けき主を

恵み豊けき主をほめたたえまつれ そのみいつくしみはときわにたえせず  
救われし御民よ 厳かに歌え 憐れみとまことは変わることなしと アーメン

\* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈 禱 書 2 ( 詩 編 51 編 )

神よ、わたしを憐れんでください。御慈しみをもって。深い御憐れみをもって、背きの罪をぬぐい去ってください。わたしの咎をことごとく洗い、罪から清めてください。わたしは咎のうちに産み落とされ、母がわたしを身ごもったときも、わたしは罪のうちにあったのです。

わたしを洗ってください。雪よりも白くなるように。神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊をさずけてください。救いの喜びを再びわたしに味わわせ、自由の霊によって支えてください。主よ、わたしの唇を開いてください。この口は、あなたの賛美を歌います。主イエス・キリストの御名によって。アーメン。

罪の赦しの宣言

十 戒 祈 禱 書 4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。 (出エジプト20、申命記5)

\* 賛 美 歌 71 それ神はその独り子を

それ神はその独り子をたもうほどに 世を愛したまえり  
すべて彼を信ずる者の 滅びずして とこしえの命を得んためなり  
それ神は世を愛したまえり 世を愛したまえり アーメン

公 同 の 祈 禱 祈 禱 書 30 聖 餐 式 主 日 ⑤ 一 つ の 体

教 会 の か し ら イ エ ス ・ キ リ ス ト の 父 な る 神 さ ま 、 あ な た は 救 い の 御 業 に よ っ て 、 地 上 に キ リ ス ト  
の 体 な る 教 会 を た て 、 わ た し た ち を 招 き 入 れ て 信 仰 の 家 族 と し て く だ さ い ま し た 。

こ の 恵 み を 心 か ら 感 謝 し て 、 わ た し た ち が 互 い の た め に 生 き る こ と が で き ま す よ う に 。 願 わ く  
は 、 天 地 の 全 て の 聖 徒 の ま じ わ り が 、 神 の 家 族 と し て 一 つ に な り ま す よ う に 。

(エフェソ4~5、Iコリント12)

献 金 (黒) 教会活動 (赤) 大会渉外活動を覚えて 70

今 さ さ ぐ る そ な え も の を 主 よ き よ め て う け た ま え アーメン

聖 書 朗 読 ルカによる福音書2章1~7節 (新約聖書102頁)

説 教 ・ 祈 禱 「飼い葉おけの赤ちゃん」 熊田雄二牧師

\* 賛 美 歌 24:1 まぶねの中に産声あげ

まぶねの中に産声あげ たくみの家に人となりて

貧しき憂い 生くる悩み つぶさになめしこの人を見よ アーメン

\* 主 の 祈 り 祈 禱 書 1

天にまします我らの父よ

願わくは御名をあげさせたまえ

御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

我らの日用の糧を 今日も与えたまえ

我らに罪を犯す者を我らが許すごとく 我らの罪をも許したまえ

我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ

国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

\* 頌 栄 63天地こぞりて

あめつちこぞりて かしこみたたえよ

み恵みあふるる 父・御子・御霊を アーメン

祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告

古澤兵庫長老

## I 序

2020年前、ベツレヘムという町で生まれた赤ちゃんは、居場所がないかのような生まれ方をしました。現代、新たに誕生する命に、この世界はどれくらいの居場所があるでしょうか。地球はどんどん狭くなっています。今朝、礼拝に来た私という小さな存在に、この世界はどれくらいの居場所があるでしょうか。国内情勢、国際情勢共に、だんだん生きづらい世界になっています。

ベツレヘムに生まれた赤ちゃんは、大人になって十字架刑で死にました。最後は十字架が立てられた穴しか居場所がないような死に方をしました。しかし、それは、ラクダが針の穴を通るような救いという、神の奇跡の始まりでした。永遠の命という、天地創造の神による新しい創造が始まったのです。永遠の命にとって、永遠に唯一の確かな居場所は、天地創造の神から来ます。天国は、天国の方から、ベツレヘムに生まれた赤ちゃんと共に来ました！

クリスマスは、教会のカレンダーでは降誕節と言います。キリストは天から地上に降りて誕生しました。神の御子が天から降って来られました。キリストの誕生は、神の方から私たちの方に来てくださったことの証しです。キリストは、新しい創造、新しい命の希望です。信じる者には、生きている時も死ぬ時も、唯一の確かなよりどころです。

## II 21世紀に入って20回目のクリスマスを迎える今年

西暦起源で言うとキリストの誕生から2020回目のクリスマスです。新型コロナウイルスに翻弄された一年ですが、世界情勢は相変わらず超大国の支配です。

2020年前、古代ローマ帝国は、やがてキリスト教を国教にした古代の超大国です。現代、アメリカは超大国であると共に、世俗化されたキリスト教の輸出大国でもあります。その影響をもろに受けているのが日本でしょう。

歴史上、キリスト教が最も世界に影響を与えた宗教であることは事実ですが、それだけに最も権力を動かしたり利用されてきたことも事実です。アメリカは、もともと信教の自由を求めてヨーロッパから逃げてきた人たちによって近代国家となりました。だから自由を大事にしてきました。

ところが、21世紀の始めに起こったニューヨークの同時多発テロによって、信教の自由と政教分離の模範的な国家としては後退しました。テロ対策で一時的に愛国者法を作ったことは、国家主義に傾くことになりました。民族や国の単位で政治が宗教と結びつく風潮は、ソ連という無神論的唯物主義が崩壊してから国際的にトレンドです。

日本も、「天皇を中心とする神の国」と、少し前の総理大臣が言いましたが、そういう宗教観を組み込んだ政治の本音が、ますます強く感じられるようになりました。それは、仏教やキリスト教の宗教行事をも国民文化として取り込む巧みなものです。日本人は何でも拝む宗教的多元主義だという知識人や文化人が多くなりました。しかし、支配者は、宗教的多元主義を、天皇を中心とする神社神道の支配下に置くというのが本音です。今、日本の政治勢力に強く感じられるのは、政治と宗教観が癒着した全体主義への傾向です。

しかし、こういう時だからこそ、本当の信仰は一人一人の心の問題だということもはっ

きりしてきます。幸か不幸か、日本はキリスト教徒が少ないので、民族や国の単位でキリスト教を考える必要はないと言えます。キリストを信じることは、まったく一人一人の心の問題です。今ここに集まっている一人一人の思想信教の自由です。

しかし、日本はキリスト教的国家ではないのに、異常なほどクリスマスがエスカレートした国です。教会の礼拝に来てキリストの誕生を祝う人は、まったく少数です。大多数はクリスマスをただ楽しんでいただけです。「これが日本人なんだ、宗教じゃなくて文化なんだからクリスチャンも付き合えよ」となると、多数派が少数派を飲み込む、悪魔の御馳走になります。一方でまじめな仏教徒は、クリスマスなどしたくないでしょう。そういう人の心を尊重することが、基本的人権の尊重です。しかし、憲法などクソくらすえとされているのが支配者たちの本音ですから、憲法を国家主義に向けて変えようとしています。

### Ⅲ 「そのころ」とは

ローマ帝国が確立した頃です。英雄カエサルの甥であるオクタヴィアヌスがクレオパトラのエジプトを破って救世主となり、初代ローマ皇帝になった頃です。オクタヴィアヌスは、「カエサル・アウグストゥス」と呼ばれて崇められるようになりました。「アウグストゥス」は皇帝の称号で「崇高な」という意味であり、カエサルは英雄の称号ですから、「カエサル・アウグストゥス」とは「崇高な英雄」です。

これがだんだん神として崇められるようになった証拠が、8月をオーガスト＝アウグストと言うようになった事に表れています。他の月の名前はほとんどローマ神話の神々なので、「アウグストゥス」も神々の仲間入りをしたことになります。

その頃、ローマ帝国の「全領土」とは、ギリシャ・ローマからエジプトまでの地中海世界です。住民登録は人口調査のためでしょう。初代皇帝アウグストゥスが、支配した全領土にどれだけの人口があるか調査するのは当然です。税金と兵役のために調べて国力を確認するのです。つまり、経済力と軍事力です。

ユダヤ人の人口調査は、4節によると、血筋・家系単位でなされたようです。ヨセフは本籍地に戻ったようなものです。「ダビデの町」というベツレヘムの別名は、ダビデ王の出身地からくるわけですが、メシアの称号が「ダビデの子」であることを思わせます。つまり、ローマ皇帝の称号が「アウグストゥス」であるのに対して、キリストの称号は「ダビデの子」なのです。

しかし、キリストの生まれかたは、アウグストゥスに追いやられるかのようでありました。「宿屋には彼らの泊まる場所がなかった」のです。大勢の人が住民登録で来ています。大部屋の雑魚寝で出産はできません。家畜小屋以外に場所がありませんでした。

### Ⅳ 人口調査のために隅に追いやられるような誕生

「皇帝アウグストゥス」は救世主と呼ばれていましたが、それは限定的に言うと、ローマ帝国のローマ人にとっての救世主です。現代、アメリカは世界平和を守る国際警察を自負していますが、限定的に言うと、アメリカを守るために世界の平和を守るのです。本当の救世主は国家や民族を超えたお方です。それは飼い葉桶の小さな赤ちゃんから始まりました。

「飼い葉桶」は受難のしるしです。ヨセフとマリアもゆりかごを用意したかったでしょ

う。住民登録のあれやこれやでできませんでした。家畜のおわんに寝かせる以外に場所がありませんでした。これは、やがて、この赤ちゃんが受ける苦しみの前ぶれでした。

しかし、これこそが神の御心でした。十字架のキリストの姿で、神は人の罪を罰し、キリストを信じる者に永遠の刑罰からの救いを実現されました。ローマ皇帝は、ローマ帝国の政治経済の救世主ではありましたが、永遠の命を与える救世主ではありませんでした。

ローマは一日にして成らずですが、大帝国は数百年にして消えました。キリストの国は歴史と国境を越えて広がっていきました。今、ここで、キリストの教会で礼拝がささげられているのがその証拠です。

「飼い葉桶」は、キリストを信じる者が受ける苦しみのしるしでもあります。この福音書が書かれた頃、ローマ帝国はキリスト教徒への迫害を始めました。ルカは、キリストを信じる者が迫害の中で希望を持つように福音書を記しています。ローマ帝国の高官テオフィロ閣下に弁明する体裁をとっていますが、中身はクリスチャンのために書いているのです。しばらくして、ローマ帝国による大迫害が行われるようになりました。それまでは、おもにユダヤ人による迫害でした。

しかし、キリストの誕生から300年くらい経って、ローマ帝国は迫害をあきらめました。迫害しても迫害しても増えるので、逆にキリスト教を国の宗教にしたのです。これでキリスト教の中心は、エルサレムからローマ帝国の首都ローマに移りました。ヨーロッパに展開されていくキリスト教の始まりです。

しかし、しばらくすると、大まかに言って、国家権力と結びついたキリスト教は世俗化され、教会は墮落してしまいました。宗教改革が必要になりました。このような歴史が繰り返されながらも、キリストの教会は、今や、全世界にあるのです。「聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、私の証人となる。」こう言われた主イエスの言葉が実現しています。

超大国は次々と起こっては消えましたが、キリストの国は消えていません。本当の神の国は、信じる者の心にあるからです。キリストの国は国境を超えて、信じる者から信じる者へと、口ウソクの火が伝わるように、心から心へと広がっていきました。

信仰は、一人一人の人間が持つものです。国や民族が持つものではありません。国家主義や民族主義が大きくなる時、一人の人間が持つ信仰や信念は、だんだん居場所がなくなっていくます。最後には、飼い葉桶くらいしか居場所がなくなるかもしれません。しかし、キリストが寝かされた飼い葉桶こそ、永遠に確かな居場所の始まりなのです。キリストを心に迎えましょう。そうすれば、神の国と永遠の命は、私という小さな存在から始まります。不思議となくなりません。